

荒川放水路通水100周年行動宣言

荒川下流部は、大正13年(1924年)10月12日に通水式を実施してから100年となる、人工の河川「荒川放水路」です。

荒川放水路が開削される以前の江戸・東京は、有史以来、度重なる水害を受けてきました。特に、明治40年(1907年)、明治43年(1910年)の洪水では、近代国家の帝都建設に向けて拡大していた工場地帯や市街地まで浸水がおよび、大きな打撃を受けました。

荒川放水路は、このような水害を契機とする抜本的な治水対策として、北区の岩淵に水門を造って本流を仕切り、岩淵の下流から中川の河口方面に向けて、延長22km、幅500mもの放水路を掘るという大規模なもので、明治44年(1911年)に着手され、大正13年(1924年)に通水を開始しました。

放水路の完成により、東京東部・埼玉南部の低地帯は水害から守られ市街化が進み、明治期の近代産業化、関東大震災、東京大空襲、高度経済成長期、そして現在に至るめまぐるしい変化の中で、荒川放水路は首都東京とその周辺都市の発展とともに変遷してきました。

一方、世界的な地球温暖化、気候変動に伴い全国各地で相次ぐ水害は、私たち荒川流域も決して他人事ではありません。国・都道府県・市区町村、地域住民・企業など流域のあらゆる関係者が協働して総合的・多層的に地域づくりを行う「流域治水」の取組が求められ、「River Basin Disaster Resilience and Sustainability by All」と英訳されるとおり、強靱で持続可能な地域づくりをみんなで取り組む必要があります。

荒川放水路は、完成から一度も決壊することなく水害から人々の命と暮らしを守り、大都市に残る貴重なオープンスペースとして、多くの人々の憩いと安らぎの場として、動植物の生息・生育・繁殖の場として、地域の発展を支え続けてきました。

荒川放水路通水から100年の節目に、改めて、荒川放水路が地域の社会資本として過去から現在に至るまで水害から流域を守り続けてきた意義、流域にもたらした恩恵、荒川放水路に関連する事業や取組などを振り返り、今後の100年の荒川放水路の未来をどう描くことができるのか、流域に暮らす一人一人が自分事として捉え、地域の発展にどう貢献できるのかを考えるきっかけにしたいと思います。

荒川放水路によって結ばれた運命共同体である私たちは、これまでに荒川放水路に関わった全ての人々への感謝の意を表すとともに、これからも安心して暮らしていける強靱で持続可能な地域としてより良い形で将来に引き継いでいくことを目指して、「荒川放水路通水100周年行動宣言」を次のとおり宣言します。

(全体)

1. 荒川放水路の歴史、地域の社会資本としての役割を次世代に継承するとともに、今後の地球温暖化、気候変動などの新たな課題に対応する「流域治水」の取組に挑戦します。

(防災・減災、強靱化)

2. 洪水等による被害を可能な限り防止し流域全体の水害リスクを軽減するため、荒川水系河川整備計画等に基づき、計画的かつ着実に流域の治水施設等の整備・老朽化対策を継続するとともに、デジタル技術等を活用した公物管理の高度化による行政サービスの向上や働き方改革に挑戦します。

加えて、地域のまちづくりを担う流域の自治体等と河川管理者が一体となって、まちづくりや避難に関する計画等を踏まえた高規格堤防などの高台まちづくりに挑戦します。

(水辺空間・自然環境)

3. 大都市に残る貴重なオープンスペースを、全ての河川利用者に愛される空間として次世代に引き継いでいくため、荒川将来像計画等に基づき、魅力ある水辺整備や良好な自然環境の創出などによる水辺の拠点づくり、緊急用河川敷道路・船着場等を活用した拠点間を繋ぐネットワークづくりに挑戦します。

(危機管理)

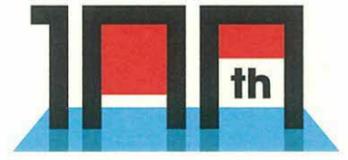
4. 発生が懸念される大規模水害や首都直下地震に備え、荒川流域水防災流域タイムラインや荒川下流防災施設活用計画等に基づき、流域の自治体・警察・消防・自衛隊・海上保安庁・ライフライン事業者等との災害時の連携協働体制を強化し、円滑な防災・避難行動等の実現に向けた取組に挑戦します。

(地域間交流)

5. 荒川放水路をはじめとした水で繋がる地域間での公公・公民・民民連携を推進し、水の繋がりを通じた相互理解・相互応援の関係づくり、流域一体となった地域づくりに挑戦します。

令和6年1月26日

荒川放水路通水100周年記念事業実行委員会



荒川放水路
通水100周年記念

戸田市長

菅原文仁

川口市長

奥、木信夫

板橋区長

坂本 健

北区長

山田加奈子

足立区長

近藤 弥生

葛飾区長

青木 克徳

墨田区長

山本 亨

江戸川区長

斎藤 猛

江東区長

大久保 朋果

埼玉県県土整備部長

金子 勉

東京都建設局長

中島 高志

荒川下流河川事務所長

出口 桂輔